

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597200017		
法人名	社会福祉法人 和木三志会		
事業所名	グループホームわきあいあい苑		
所在地	山口県玖珂郡和木町瀬田4丁目1-1		
自己評価作成日	評価結果市町受理日	平成28年8月31日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者、ご家族の思いを大切にし、安心して過ごしていただけるよう努めている。 ・入居者が高齢化されているので、一人一人に合わせた、楽しみのある生活が送れるよう努めている。 ・食事は入居者と一緒に3食手作りをしている。食器や盛りつけで季節を感じていただける様工夫している ・掃除、洗濯を入居者と一緒に行い、一人一人が役割をもった生活ができる工夫をしている。 ・散歩やレクリエーションを日課に取り入れ、楽しみをもてるよう支援をしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>毎日の食事は利用者の好みを取り入れられ、法人の栄養士の助言を得られて栄養バランスにも考慮され、三食とも職員が交替で手づくりされています。旬の食材を取り入れられ、食器や盛りつけに季節感を出す工夫をされており、見た目も美しく利用者がおいしく食べられるように支援されています。利用者個人で新聞を購読されたり、近くの公園やバラ園を散歩されたり、買い物に行かれたり、食事づくりや洗濯物干し、洗濯物たたみ、自室の掃き掃除などに取り組みされているなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりなど利用者一人ひとりの思いに寄り添われ、個別の支援に取り組まれています。利用者の居室には使い慣れたなじみのものや思い出の品、好みのものを持ち込んでおられ、家族の写真やぬいぐるみ、人形などを飾られて、時折り、家族や職員と一緒に模様替えをされて、その人らしい居室づくりをしておられ、利用者が居心地良く過ごせるように支援されています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、活き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成し、管理者と職員で話し合う事で、その理念が実践できるように努めている。	職員全員で話し合っ事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して共有し、理念の実践に努めている。地域密着型サービスの意義をふまえた理念とはなっていない。	・地域密着型サービスとしての意義をふまえた理念の作成
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近隣に散歩に出かけ、地域の方たちと交流をしている。また、ボランティアの訪問などを受け入れ、入居者との交流の機会をもっている。	併設の法人施設に来訪している地域のボランティア団体が事業所にも来訪してガラス拭きや草取り、掃除等をしている他、利用者が併設施設に出かけていき、ボランティアの琴の演奏や合唱、ダンス、手品等の演芸を見学し、交流している。近くの公園への散歩の行き帰りに近所の人と挨拶を交わしたり、庭の花を切ってもらうなど、地域の人と交流している。法人主催の夏祭りには子供会や地域住民の参加があり、利用者も参加して交流している。中学生や小学生の来訪があり、話し相手や折り紙をして利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で活動されているサロンへ出向き、グループホームの説明や認知症の方の理解へ向けた活動をしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員1人1人が改善出来る項目を選び、取り組むことで、評価の意義の理解や改善につながるよう努めている。	管理者はミーティングで職員から意見を聞いて自己評価をまとめている。前回の外部評価結果について職員で話し合い、目標達成計画を立て、研修や応急手当の訓練の実施など改善に取り組むように努めている。	・評価の意義と項目の理解 ・全職員での自己評価の取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の入居者の方の生活の様子をご家族、民生委員、地域包括支援センターの出席者へ説明し、出席者の方の意見を伺う事で、サービス向上へ生かしている。	2ヶ月に1回会議を開催し、事業所の活動や取り組みについて報告し意見交換している。出席者は民生委員や家族代表、地域包括支援センター職員など少数で会議の内容や記録が十分ではなく、サービス向上に活かしているとは言えない。	・メンバーの拡大 ・会議の内容や記録の工夫 ・会議を活かす取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	災害時に町と連携をとり避難者の受入協力を行った。また、町の企画する研修会へ参加をするなど連携を深めている。	町の担当者とは電話や出向いて情報交換したり、相談して助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議の時に相談し意見をもらったり、研修会に参加するなど連絡をとりあい連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修をし職員間で共通理解をする事で、入居者の人権に配慮した身体拘束のないケアをしている。	職員は毎年内部研修で身体拘束について学び、理解して身体拘束しないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては職員同士で注意しあったり、管理者がその都度指導している。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について研修を行い、通報先等を確認している。また、複数の職員が関わることで、事業所内での虐待が見過ごされる事が無いようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	山口県社会福祉協議会等から出される、権利擁護に関する資料やホームページに掲載されている情報を基にして研修を行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って十分説明し、理解・納得していただいている。また、面会時を利用し随時必要な情報を報告し、不安や疑問点の軽減に努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情の受付体制等の説明を行うことで、利用者や家族が意見を出しやすい様にしている。また、その意見を職員間で共有し運営に生かしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。家族からの意見は電話や面会時、運営推進会議時に聞いている。利用者のケアの方法について家族から意見があり、本人の思い、家族の思い、職員の思いなどを話し合い、改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送りや勉強会等で職員からの意見を聞き、運営に生かしている。また、職員が意見を出しやすい職場づくりに努めている。	管理者は朝、夕の申し送り時や勉強会などで職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも意見を聞いて、業務日誌に記録して共有している。運営に関する意見は出ていない。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々の能力を発揮して働くことができるように、キャリアパスを導入した給与規則の改定に取り組んでいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、年間計画を立て計画的に内部研修を行うことで、教育の充実をはかる。	外部研修の情報を伝え、参加を呼びかけているが、参加している職員は少ない。法人研修は年間計画があり、五回実施しており、職員が参加している。欠席の職員には資料を回覧して共有している。内部研修は管理者が講師となり、応急手当、虐待防止、身体拘束、感染症対策など勉強会を実施している。資格取得の為に勤務調整するなどの支援をしている。	・外部研修に職員が参加できる機会の確保
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、研修会に参加、交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談において本人から話を聞き、家族やケアマネジャーからの情報も踏まえて、本人の意向を引き出し安心して話せるように心がけている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や入所準備の段階からご家族と連絡を取り合う事で、信頼関係を築ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のニーズを把握し、入所時のケアプランに反映させている。必要に応じて他のサービスも考えていきたい。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じて役割を持った生活を送れるよう、寄り添う気持ちで支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡により家族と情報を共有し、本人と家族の関係にも配慮しながら支援を行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力で墓参りや帰宅、外食などを行い、知人・友人との面会も楽しんでいただいている。また、併設の施設利用者とも日常的に交流していただいている。	親戚の人や友人、知人、隣接のデイサービスセンター利用者などの来訪がある他、手紙や電話などでの交流を支援している。家族と近くの公園を散歩したり、家族の協力を得て、外泊、外食、墓参り、買い物、法事への参加、美容室の利用等の機会があり、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話に気を配り、認知症の症状も考慮に入れ、より良い関係が保たれる様支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養への入所が必要になられた場合、手続きがスムーズに行われる様支援している。特養へ入所された後もグループホームへ遊びにきていただき、入居者との交流が継続できる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ご本人の状態の変化に対し、その対応をご家族と都度話し合い、意向を引き出すように心がけている。	入居時の基本情報や本人や家族から聞き取りをしたアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中で利用者の言葉や様子を援助記録に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族の話聞いて職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の事前面接を通じて、生活歴などの把握に努めている。また、他のサービス事業所からの協力も得て情報収集を行っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ご本人の心身の状態の変化に注意している。また、ご家族と連絡をとる事により正しい現状把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向、医師の意見などを基本に、担当スタッフ、サービス計画担当者で話し合い、ケアの見直しをはかっている。状態の変化があれば、その都度検討している。	利用者の担当職員がケアカンファレンスシートを作成し、計画作成担当者、その日の勤務職員が参加してカンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、利用者の状態に変化が生じた場合はそのつど見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに日々の状態を記録し、スタッフが勤務前に目を通すことで情報を共有している。朝・夕申し送りを行い、伝達・確認をして実践につなげている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方の方が入居されたので、ご家族に代わってできる支援を視野に、柔軟な取組をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の衣料品店など、馴染みのある店へ買い物に出かけている。事前に連絡し、店の協力を得て買い物を楽しんでいただいている。今後は町の行事に参加していきたいと考えている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の了解を得て、協力医院をかかりつけ医として、週2回往診を受けている。他科受診は家族に付き添っていただくが、必要な情報を伝えている。	利用者は協力医療機関をかかりつけ医とし週に1～2回の訪問診療を受けている他、他科受診は家族の協力を得て支援している。受診時には利用者の必要な情報を書類等で医師に伝えている。併設の特別養護老人ホームの看護師が往診時に付き添い、利用者の健康管理や職員の相談への助言、緊急時の対応などの支援をしている他、薬剤師が週に1回服薬指導に来訪するなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の事業所の看護職員に相談し、入居者の健康管理について適切な対応を心がけている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族、病院関係者と情報交換し、より安心して治療が受けられる様、配慮している。また、通院時にはカンファレンスの機会を持っている。退院時には、これからの対応等について、ご家族を交えて決定している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについて、常に本人やご家族の意向を尊重し安心していただけるよう、主治医・併設の特養と連携を取りながら対応している。	重度化した場合や終末期に事業所のできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、主治医の意見を聞いて家族と話し合い、入院や移設を含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリ・ハット事故報告書に記録し、職員で対応策を話し合い、事故防止の意識を共有している。また、併設の特養看護職員を講師として研修をし、急変時の初期対応の実践力を身につけるよう努めている。	事故発生時は、対応した職員がヒヤリハット・事故報告書に記録し、申し送り時に職員で話し合って対応や改善策を記入し、全職員に回覧して共有して事故防止に努めている。併設施設の看護師を講師として応急手当の研修をしたり、事例発生時に看護師の指示で職員が傷の手当などを実施している。応急手当や初期対応の訓練は定期的には実施しておらず、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で火災及び災害時の避難訓練を行い、併設の特養との協力や避難方法を全職員で確認している。また、苑の行事を通じて、地域との協力体制ができるようにしている。	法人施設と合同で消防署の協力を得て、昼、夜、災害時を想定した通報、避難訓練を利用者も参加して実施している。法人内での連絡体制や協力体制はできているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時、お一人で入浴したい方への配慮や、紙パンツの使用が分からないようにするなど、プライバシーに配慮した対応をしている。	利用者を身近な人として接し、安心して過ごせるように一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やってみたいレクリエーションを聞いたり、日常生活の中で、洗濯干しやお盆拭き・調理など、意欲のある人に声かけをし、役割をもって活動していただいている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年齢や体力に合わせ自由に時間が使えるよう配慮し、希望に沿った活動ができる様声かけをしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各居室にて毎朝洗面支度をして頂いている。化粧の声かけや介助も行っている。入浴時には、衣服を選んでいただくなど、ご本人のレベルに合わせたお手伝いを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備、盛りつけ、配膳、下膳食器洗い、片付けをして頂いている。職員は同じテーブルにつき、同じ食事を摂っている。食器や盛りつけを工夫し楽しい食卓になるように心がけている。また、行事メニューも入居者の方の意見を聞き取り入れている。	職員は法人の栄養士の助言を得て、利用者の好みを取り入れた献立をたて、三食とも手づくりしている。利用者は野菜の下ごしらえやテーブル拭き、下膳、お盆拭きなど一人ひとりできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで好物の話や季節の話題など会話を楽しみながら同じものを食べている。弁当を購入して戸外で食べたり、誕生会やクリスマス、敬老会、おせち、白玉お雑煮など手づくりの季節の料理を味わったり、利用者と一緒にパンケーキ、スムージー、バナナジュース、ぜんざいなどおやつづくりをしている。食器や盛りつけ、飾り付けにも季節感を出す工夫がしてあり、目でも味わうことができるなど、食事を楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をとることや水分補給の支援を行う事により、健康状態の把握に努めている。水分摂取については、午前・午後に1度ずつお茶や軽飲料の時間をもうけたり、夜間はペットボトルを用意するなどしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に口腔ケアの声かけや介助を行っている。就寝前には義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。また、週に1度は歯磨き用のコップを漂白し、清潔保持をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	声かけや定時誘導でトイレでの排泄を支援している。排泄の自立に向けて、入居者のペースに合わせた支援に努めている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者のタイミングに合わせて、声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトを食べていただくことや、水分摂取に配慮している。また、朝食後にトイレ誘導をする事で、自然排便を促している。排泄チェック表により排便確認を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員が1対1で対応し、ゆっくり入浴していただけるようにしている。また、一人で入浴したい方への配慮を行っている。四季それぞれの季節にはバラ湯や柚湯で入浴を楽しんで頂いている。	入浴は、13時から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて、週2回はゆっくり入浴ができるように支援している。入浴剤を使用して香りや色を楽しんだり、もらったバラの花を浴槽に浮かべたり、ゆず湯を楽しんでいる。利用者の状態に合わせて足浴や清拭の支援をしたり、入浴したくない人にはタイミングをずらしたり、職員を替えたり、言葉かけを工夫して支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調に合わせ、活動や休息をとって頂いている。夜間はパジャマへの介助声かけを行い、就寝して頂いている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自のファイルに処方箋を綴じており、職員がすぐ確認できるようにし、個々に応じた介助を行い飲み忘れや飲み残しの無いように努めている。週2回の医師の回診日に症状の報告を行っている。また、薬剤師の訪問時服薬の相談もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや食事の準備の手伝い、得意なレクリエーションを行うことで、全員が一日を通して活躍できる場がもてるようにしている。	歌を歌ったり、テレビやビデオで歌番組やスポーツ番組を視聴したり、ぬり絵、貼り絵、編み物、ラジオ体操、風船バレー、うちわゲーム、運動会で体を動かしたり、黒髭ゲームを楽しんだり、公園への散歩、買い物、クリスマス会、敬老会、小中学生との交流などの行事に参加している。個人で新聞を購読している利用者があるほか、事業所でとっている新聞を読むなど、一人ひとりが希望する楽しみごとを支援している。洗濯物干しや取り入れ、洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえや、お盆拭き、台拭き、居室の掃き掃除など活躍できる場面づくりをして、張り合いのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度は特養と一緒に外出したり、気候のよい春・秋には散歩の支援をしている。ご家族の協力のもと、お墓参り、外食など外出もされている。	日常的に近所の公園などに散歩に出かけ、バラ園を見学したり、うさぎにエサをやったりしている。家族の協力を得て墓参りや買い物、外食、法事への参加、外泊など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に自分で選んで購入して頂けるように支援をしたり、施設内の自動販売機でジュースを買えるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者本人から電話や手紙の依頼があった場合は、支援ができる体制を整え、ご家族から電話があった場合も取り次ぎをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節の花を生けたり、時期によって季節感のある工作を飾るようにしている。温度、湿度を確認し、入居者それぞれに合った温度管理を行っている。	リビングにはテーブル、イス、テレビ、ソファが配置しており、思い思いの場所で過ごすことができる。季節の花があちこちに生けてあり、壁には利用者が職員と一緒に作った季節に合わせた貼り絵を飾り、季節感を感じることができる。対面式の台所からは調理の音や匂いがしていて、食事の準備をしている職員とリビングの利用者が会話をしているなど、家庭的な雰囲気がある。温度や湿度、換気などに配慮して、利用者が居心地良く過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の共用空間では、入居者同士で語らう食卓と、一人になれるソファや居室を活用し、食卓の席の位置など、できる範囲で居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族と相談しながら、ご本人の好みの物・なじみの品などを持ち込んでいただき、安心できる居室づくりに努めている。	居室の窓は大きく、自然の光が差し込んで明るい。外の景色を眺めて季節を感じることができる。居室にはベッドや洋服ダンス、整理ダンス、テレビ、ハンガーラック、イス、布団、衣類など使い慣れたものや好みのものをもち込んで、家族の写真や人形、ぬいぐるみ、花などを飾っている。時々家族や職員と一緒に居室内の模様替えをして、利用者が居心地良く過ごせるような支援をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時はトイレの距離等に配慮し、ご本人の能力に応じた居室提供や、生活に必要な物品の配置に気をつけている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームわきあいあい苑

作成日: 平成 28 年 8 月 31 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5 (4)	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、活動や取り組みについて意見交換をしている。出席者は民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員と少数で会議を行っている。	メンバーの拡大をはかり、より活発な意見交換を行う。	地域密着型デイサービスが運営推進会議を開催する際には、開催する日程を合わせ、合同で運営推進会議を行う事で、メンバーを拡大し活発な意見が出るようにする。	4ヶ月
2	5 (4)	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しているが、その内容が事業所のサービス向上に、十分に活かされているとは言えない。	会議で出た意見や内容の記録を分かり易く整理し、事業所のサービス向上へ繋がるようにする。	運営推進会議の後、ケアスタッフとミーティングを開き、会議で出た意見や内容を、スタッフに分かり易く説明をし、会議の内容をスタッフが理解をすることで、事業所のサービス向上に繋がるようにする。	6ヶ月
3	4 (3)	管理者が中心となって職員から意見を聞き、自己評価をまとめている。外部評価の結果についても職員で話し合い、目標達成に向けて取り組んではいるが、評価の意義と項目の理解が十分に深まっているとは言えない。	職員間で評価の意義と項目の理解を深める。	事業所内で行うミーティングを行う際、外部評価の意義や、その項目の内容についてふれる機会を増やし、ケアスタッフ間で評価の意義と項目の理解を深めることに役立てる。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。